

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	中央情報専門学校
設置者名	学校法人 中央情報学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	A I プロジェクト学科	夜・通信	864時間	160時間	
	I T ・ W e b 学科	夜・通信	1,728時間	160時間	
商業実務専門課程	ビジネスデザイン学科	夜・通信	1,728時間	160時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ccmc.ac.jp/school/information/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	中央情報専門学校
設置者名	学校法人 中央情報学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.ccmc.ac.jp/school/information/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	税理士	2021.6.1～ 2023.5.31	組織運営体制への チェック機能、財務
非常勤	会社員	2021.6.1～ 2023.5.31	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中央情報専門学校
設置者名	学校法人 中央情報学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
各学科共通	
【作成について】	
例年開催される第1回教育課程編成委員会(通常8月)での教育課程の検討を受けて、教務会議を中心に、各授業担当の教員の意見等を取り纏め、翌年度の教育課程の編成を行う。第2回教育課程編成委員会(通常3月)における、翌年度教育課程の検討を経て、3月下旬に授業科目とその目的の設定、授業内容、時間割、担当教員等を3月の教務会議にて決定する。	
各授業担当教員は、「シラバス作成ガイドライン」に従って、学則に従った科目、授業時間で、授業の目的、到達目標、成績評価方法、テキスト、授業計画といった決められた事項について、各学科とも統一した書式で3月に作成し、教務会議に提出する。	
教務会議は、シラバスの内容を検討した後、4月に公開の決定し、ホームページ担当者にその指示を出す。	
【作成・公表時期】	
新年度の授業開始前(例年4月10日ごろ)	
授業計画書の公表方法	https://ccmc.ac.jp/school/information/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各授業科目の学修成果は、各授業担当教員が、シラバスで公開した評価方法で、出席・学習態度・意欲(40%)、課題(20%)、試験・総合力(40%)により100点満点で採点し、A(90点以上)、B(75点以上)、C(60点以上)、D(50点以上)、F(50点未満)の5段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢により、評価する。	
学則第19条により、A、B、C、Dは合格とし、Fは不合格とする。	
毎年度末に、GPAの算出と分布状況を確認するとともに、進級判定会議、卒業判定会議において、全学生について、出席率が80%以上で、成績が取得すべき単位の80%以上合格している学生に対し、学則第20条により、校長が課程修了の認定を行う。	
学則、シラバスは学校HPにて公開している。	
上記、学修成果の評価方法、進級・卒業の認定について、入学時オリエンテーション、後期オリエンテーション、進級時オリエンテーションで全学生に説明し、周知徹底している。	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本校では、学生の自主的な学習の促進および学生指導、就職指導等に活用することを目的として、2019年度からGPA(Grade Point Average)制度を導入している。 (「GPA(Grade Point Average)による成績評価」をHPにて公開) 各科目の成績は、シラバスで公開した評価方法で、出席・学習態度・意欲(40%)、課題(20%)、試験・総合力(40%)により100点満点で採点し、A(90点以上)、B(75点以上)、C(60点以上)、D(50点以上)、F(50点未満)の5段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢により、評価している。 各学生の履修科目の成績を、A(4)、B(3)、C(2)、D(1)、F(0)のグレード・ポイント(GP)に変換し、GPに当該科目の授業時間数を乗じて、その総和を履修総授業時間数で除した値をGPAとする。 この成績評価によって、学生の成績分布が分かるとともに、学習意欲の向上に役立てるように、HPで公開し、オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://ccmc.ac.jp/school/information/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 当校は、「未来をデザインし、社会のイノベーションに寄与する」ために、21世紀の日本と世界で、新しいビジネスに挑む、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成することを教育理念としている。 所定の課程を修了したものは、教育目標である <1>産業界が求める専門知識、専門スキル <2>デザインを形にできる能力 <3>コミュニケーション能力 を身につけた者として、学則第22条により、卒業の認定をしている。 学則第22条では、「卒業の認定は、本科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、試験に合格し所定の単位を取得した者を卒業とし、卒業証書を授与する」、としている。すなわち、出席率80%以上で、試験等の評価により取得すべき単位数の80%に合格した者を卒業認定している。 当校ではディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)を策定し、HPに公開している。 この教育理念、教育目標は、学生の学びの指針として、入学時・進級時オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://ccmc.ac.jp/school/information/</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	中央情報専門学校
設置者名	学校法人 中央情報学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://ccmc.ac.jp/school/information/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	AIプロジェクト学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,728 単位時間/単位	1080 単位時間		648 単位時間		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		14人	14人	2人	0人	2人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>【作成について】</p> <p>例年開催される第1回教育課程編成委員会（通常8月）での教育課程の検討を受けて、教務会議を中心に、各授業担当の教員の意見等を取り纏め、翌年度の教育課程の編成を行う。第2回教育課程編成委員会（通常3月）における、翌年度教育課程の検討を経て、3月下旬に授業科目とその目的の設定、授業内容、時間割、担当教員等を3月の教務会議にて決定する。</p> <p>各授業担当教員は、「シラバス作成ガイドライン」に従って、学則に従った科目、授業時間で、授業の目的、到達目標、成績評価方法、テキスト、授業計画といった決められた事項について、各学科とも統一した書式で3月に作成し、教務会議に提出する。</p> <p>教務会議は、シラバスの内容を検討した後、4月に公開の決定し、ホームページ担当者にその指示を出す。</p> <p>【作成・公表時期】</p> <p>新年度の授業開始前（通常4月10日ごろ）</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>本校では、学生の自主的な学習の促進および学生指導、就職指導等に活用することを目的として、2019年度からGPA（Grade Point Average）制度を導入している。（「GPA（Grade Point Average）による成績評価」をHPにて公開）</p> <p>各科目の成績は、シラバスで公開した評価方法で、出席・学習態度・意欲（40%）、課題（20%）、試験・総合力（40%）により100点満点で採点し、A（90点以上）、B（75点以上）、C（60点以上）、D（50点以上）、F（50点未満）の5段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢により、評価している。</p> <p>各学生の履修科目の成績を、A（4）、B（3）、C（2）、D（1）、F（0）のグレード・ポイント（GP）に変換し、GPに当該科目の授業時間数を乗じて、その総和を履修総授業時間数で除した値をGPAとする。</p> <p>この成績評価によって、学生の成績分布が分かるとともに、学習意欲の向上に役立てるように、HPで公開し、オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>当校は、「未来をデザインし、社会のイノベーションに寄与する」ために、21世紀の日本と世界で、新しいビジネスに挑む、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成することを教育理念としている。</p> <p>所定の課程を修了したものは、教育目標である</p> <p><1>産業界が求める専門知識、専門スキル</p> <p><2>デザインを形にできる能力</p> <p><3>コミュニケーション能力</p> <p>を身につけた者として、学則第22条により、卒業の認定をしている。</p> <p>学則第22条では、「卒業の認定は、本科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、試験に合格し所定の単位を取得した者を卒業とし、卒業証書を授与する」、としている。すなわち、出席率80%以上で、試験等の評価により取得すべき単位数の80%に合格した者を卒業認定している。</p> <p>当校ではディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）を策定し、HPに公開している。</p> <p>この教育理念、教育目標は、学生の学びの指針として、入学時・進級時オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>産学連携を重視し、企業からの講師による業界や企業が求める人材ニーズとそのために必要な知識・スキルを、学生が目的を持って学べるように設定している。授業は、理解度を測定しながら、学生の進度にあった内容で行っている。授業時間外で、学生が自主的に学べるように、eラーニング等を活用するとともに、コンテスト等に参加して、スキル向上のための取組みを行っている。学業成績優秀者には、表彰、学校奨学金、資格取得奨励金などにより支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等)			
大手IT企業、システム開発会社、富士通株式会社、株式会社アイエスアール、株式会社トラスト・テック、UTテクノロジー株式会社など			
(就職指導内容)			
毎月実施している学内での企業説明会・面接会、インターンシップ等を通して、学生一人ひとりの就職に対して、進路指導担当をはじめ全教職員が様々な角度から本人の長所を拾い上げ、適性人材として求人企業とのマッチングを行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
応用情報技術者、基本情報技術者、ITパスポート、CCNA、CCENT、情報処理技能検定、日本語能力試験、MBSD Cybersecurity Challenges 参加			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および生活指導担当者が面談し、教職員全体で親身になって生活相談にのる。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		専門課程	I T ・ W e b 学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1, 728 単位時間	1008 単位時間		720 単位時間	
			1, 728 単位時間			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人	199人	178人	6人	2人	8人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>【作成について】</p> <p>例年開催される第1回教育課程編成委員会(通常8月)での教育課程の検討を受けて、教務会議を中心に、各授業担当の教員の意見等を取り纏め、翌年度の教育課程の編成を行う。第2回教育課程編成委員会(通常3月)における、翌年度教育課程の検討を経て、3月下旬に授業科目とその目的の設定、授業内容、時間割、担当教員等を3月の教務会議にて決定する。</p> <p>各授業担当教員は、「シラバス作成ガイドライン」に従って、学則に従った科目、授業時間で、授業の目的、到達目標、成績評価方法、テキスト、授業計画といった決められた事項について、各学科とも統一した書式で3月に作成し、教務会議に提出する。</p> <p>教務会議は、シラバスの内容を検討した後、4月に公開の決定し、ホームページ担当者にその指示を出す。</p> <p>【作成・公表時期】</p> <p>新年度の授業開始前(通常4月10日ごろ)</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>本校では、学生の自主的な学習の促進および学生指導、就職指導等に活用することを目的として、2019年度からGPA(Grade Point Average)制度を導入している。 (「GPA(Grade Point Average)による成績評価」をHPにて公開)</p> <p>各科目の成績は、シラバスで公開した評価方法で、出席・学習態度・意欲(40%)、課題(20%)、試験・総合力(40%)により100点満点で採点し、A(90点以上)、B(75点以上)、C(60点以上)、D(50点以上)、F(50点未満)の5段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢により、評価している。</p> <p>各学生の履修科目の成績を、A(4)、B(3)、C(2)、D(1)、F(0)のグレード・ポイント(GP)に変換し、GPに当該科目の授業時間数を乗じて、その総和を履修総授業時間数で除した値をGPAとする。</p> <p>この成績評価によって、学生の成績分布が分かるとともに、学習意欲の向上に役立てるように、HPで公開し、オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>当校は、「未来をデザインし、社会のイノベーションに寄与する」ために、21世紀の日本と世界で、新しいビジネスに挑む、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成することを教育理念としている。</p> <p>所定の課程を修了したものは、教育目標である</p> <p><1>産業界が求める専門知識、専門スキル</p> <p><2>デザインを形にできる能力</p> <p><3>コミュニケーション能力</p> <p>を身につけた者として、学則第22条により、卒業の認定をしている。</p> <p>学則第22条では、「卒業の認定は、本科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、試験に合格し所定の単位を取得した者を卒業とし、卒業証書を授与する」、としている。すなわち、出席率80%以上で、試験等の評価により取得すべき単位数の80%に合格した者を卒業認定している。</p> <p>当校ではディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)を策定し、HPに公開している。</p> <p>この教育理念、教育目標は、学生の学びの指針として、入学時・進級時オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>産学連携を重視し、企業からの講師による業界や企業が求める人材ニーズとそのために必要な知識・スキルを、学生が目的を持って学べるように設定している。授業は、理解度を測定しながら、学生の進度にあった内容で行っている。授業時間外で、学生が自主的に学べるように、eラーニング等を活用するとともに、コンテスト等に参加して、スキル向上のための取組みを行っている。学業成績優秀者には、表彰、学校奨学金、資格取得奨励金などにより支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
80人 (100%)	2人 (2.5%)	41人 (51.3%)	37人 (46.3%)
(主な就職、業界等)			
大手IT企業、システム開発会社、株式会社アイエスアール、株式会社トラスト・テック、UTテクノロジー株式会社など			
(就職指導内容)			
毎月実施している学内での企業説明会・面接会、インターンシップ等を通して、学生一人ひとりの就職に対して、進路指導担当をはじめ全教職員が様々な角度から本人の長所を拾い上げ、適性人材として求人企業とのマッチングを行っている。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
応用情報技術者、基本情報技術者、ITパスポート、CCNA、CCENT、情報処理技能検定、日本語能力試験、MBSD Cybersecurity Challenges 参加			
(備考)(任意記載事項)			
2019年5月富士通フォーラム2019に参加			
2019年11月学修成果発表会(志木市民会館パルシティ)			
2020年2月卒業制作発表会(志木市民会館パルシティ)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
180人	5人	2.8%
(中途退学の主な理由) 就職、経済的理由のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および生活指導担当者が面談し、教職員全体で親身になって生活相談にのる。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
商業実務		専門課程	ビジネスデザイン学 科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1, 728 単位時間	1296 単位時間		432 単位時間	
			1, 728 単位時間			
生徒総定員 数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
100人		124人	124人	5人	1人	6人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
<p>（概要）</p> <p>【作成について】</p> <p>例年開催される第1回教育課程編成委員会（通常8月）での教育課程の検討を受けて、教務会議を中心に、各授業担当の教員の意見等を取り纏め、翌年度の教育課程の編成を行う。第2回教育課程編成委員会（通常3月）における、翌年度教育課程の検討を経て、3月下旬に授業科目とその目的の設定、授業内容、時間割、担当教員等を3月の教務会議にて決定する。</p> <p>各授業担当教員は、「シラバス作成ガイドライン」に従って、学則に従った科目、授業時間で、授業の目的、到達目標、成績評価方法、テキスト、授業計画といった決められた事項について、各学科とも統一した書式で3月に作成し、教務会議に提出する。</p> <p>教務会議は、シラバスの内容を検討した後、4月に公開の決定し、ホームページ担当者にその指示を出す。</p> <p>【作成・公表時期】</p> <p>新年度の授業開始前（例年4月10日ごろ）</p>					
成績評価の基準・方法					
<p>（概要）</p> <p>本校では、学生の自主的な学習の促進および学生指導、就職指導等に活用することを目的として、2019年度からGPA（Grade Point Average）制度を導入している。</p> <p>（「GPA（Grade Point Average）による成績評価」をHPにて公開）</p> <p>各科目の成績は、シラバスで公開した評価方法で、出席・学習態度・意欲（40%）、課題（20%）、試験・総合力（40%）により100点満点で採点し、A（90点以上）、B（75点以上）、C（60点以上）、D（50点以上）、F（50点未満）の5段階で評価する。総合力では、知識・理解力、思考・推論、応用力、創造力、コミュニケーション力、学習に取り組む姿勢により、評価している。</p> <p>各学生の履修科目の成績を、A（4）、B（3）、C（2）、D（1）、F（0）のグレード・ポイント（GP）に変換し、GPに当該科目の授業時間数を乗じて、その総和を履修総授業時間数で除した値をGPAとする。</p> <p>この成績評価によって、学生の成績分布が分かるとともに、学習意欲の向上に役立つように、HPで公開し、オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>					
卒業・進級の認定基準					

<p>(概要)</p> <p>当校は、「未来をデザインし、社会のイノベーションに寄与する」ために、21世紀の日本と世界で、新しいビジネスに挑む、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成することを教育理念としている。</p> <p>所定の課程を修了したものは、教育目標である</p> <p><1>産業界が求める専門知識、専門スキル</p> <p><2>デザインを形にできる能力</p> <p><3>コミュニケーション能力</p> <p>を身につけた者として、学則第22条により、卒業の認定をしている。</p> <p>学則第22条では、「卒業の認定は、本科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、試験に合格し所定の単位を取得した者を卒業とし、卒業証書を授与する」、としている。すなわち、出席率80%以上で、試験等の評価により取得すべき単位数の80%に合格した者を卒業認定している。</p> <p>当校ではディプロマ・ポリシー(卒業認定の方針)を策定し、HPに公開している。</p> <p>この教育理念、教育目標は、学生の学びの指針として、入学時・進級時オリエンテーション、説明会等で周知している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>産学連携を重視し、企業からの講師による業界や企業が求める人材ニーズとそのために必要な知識・スキルを、学生が目的を持って学べるように設定している。授業は、理解度を測定しながら、学生の進度にあった内容で行っている。授業時間外で、学生が自主的に学べるように、eラーニング等を活用するとともに、コンテスト等に参加して、スキル向上のための取組みを行っている。学業成績優秀者には、表彰、学校奨学金、資格取得奨励金などにより支援している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
65人 (100%)	1人 (1.5%)	55人 (84.6%)	9人 (13.8%)
(主な就職、業界等)			
大手企業、大塚商会グループ、株式会社ノジマグループ、UTグローバル株式会社、株式会社物語コーポレーション、株式会社ベジコープなど			
(就職指導内容)			
毎月実施している学内での企業説明会・面接会、インターンシップ等を通して、学生一人ひとりの就職に対して、進路指導担当をはじめ全教職員が様々な角度から本人の長所を拾い上げ、適性人材として求人企業とのマッチングを行っている。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
秘書技能検定、サービス接客実務検定、メンタルヘルス・マネジメント検定、日商簿記検定、文書デザイン検定、情報処理技能検定 表計算、日本語能力試験他			
(備考)(任意記載事項)			
2019年11月学修成果発表会(志木市民会館パルシティ)			
2020年2月卒業制作発表会(志木市民会館パルシティ)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
119人	7人	0.6%
(中途退学の主な理由) 家族滞在、配偶者の転勤先引っ越しのため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任および生活指導担当者が面談し、教職員全体で親身になって生活相談にのる。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
AI プロジェクト学科	100,000 円	480,000 円	280,000 円	実習費、施設設備費
IT・Web 学科				
ビジネスデザイン学科				
修学支援 (任意記載事項)				
学校独自の学費減免制度、奨学金制度あり。 学業成績優秀者への表彰、資格取得奨励金制度等の学修支援制度あり。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
https://ccmc.ac.jp/school/information/
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)
<p>①「専修学校における学校評価ガイドライン」(文部科学省：平成25年3月)及び「学校法人中央情報学園における学校評価に関する要綱」(学校法人中央情報学園：平成24年6月1日)に基づいた評価項目による評価を行う。 (具体的な評価項目)</p> <p>(1) 教育理念・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ● 学校における職業教育の特色は何か ● 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ● 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか ● 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか <p>(2) 学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目的等に沿った運営方針が策定されているか ● 運営方針に沿った事業計画が策定されているか ● 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ● 人事、給与に関する規定等は整備されているか ● 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ● 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ● 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ● 情報システム化等による業務の効率化が図られているか <p>(3) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ● 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ● 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ● キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
 - 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
 - 授業評価の実施・評価体制はあるか
 - 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
 - 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
 - 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
 - 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
 - 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか
 - 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
 - 職員の能力開発のための研修などが行われているか
- (4) 学修成果
- 就職率の向上が図られているか
 - 資格取得率の向上が図られているか
 - 退学率の低減が図られているか
 - 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
 - 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
- (5) 学生支援
- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
 - 学生相談に関する体制は整備されているか
 - 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
 - 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
 - 課外活動に対する支援体制は整備されているか
 - 学生の生活環境への支援は行われているか
 - 保護者と適切に連携しているか
 - 卒業生への支援体制はあるか
 - 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
 - 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
- (6) 教育環境
- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
 - 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
 - 防災に対する体制は整備されているか
- (7) 学生の受入れ募集
- 学生募集活動は適正に行われているか
 - 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
 - 学納金は妥当なものとなっているか
- (8) 財務
- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
 - 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
 - 財務について会計監査が適正に行われているか
 - 財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

(10) 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

(11) 国際交流

- 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか
- 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
- 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか
- 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

②評価委員会の構成

学校関係者評価委員会は、業界団体・企業からの委員、高等学校の役職員またはその経験者から委員を選任し（定数3人以上）、毎年8月に開催し、3名以上の委員の参加による学校関係者評価委員会において、自己点検・自己評価報告書をもとに学校評価を行う。

③評価結果の活用方法

学校関係者評価委員会の学校運営に関する改善のための評価、助言をもとに、学校関係者評価報告書をホームページにてその内容を公開するとともに、学校長のもと、改善提案の実施方法、実施時期を8月の校務運営会議で検討する。すぐに改善できる内容は、9月から実施し、さらに検討が必要なものは、次年度の重点目標の設定や具体的取組の改善で反映させる。

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
公益財団法人 日本教育公務員弘済会 顧問 元埼玉県立浦和高等学校長	2021年4月1日～ 2022年3月31日	高校
一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 理事 株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役	2021年4月1日～ 2022年3月31日	企業等委員
オフィス・プレクサス代表 NECビッグロブ株式会社 元執行役員常務	2021年4月1日～ 2022年3月31日	企業等委員
増古技術士事務所 所長 公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部長 パシフィックシステム株式会社相談役 元代表 取締役社長 公益社団法人 埼玉県情報サービス産業協会 元 副会長	2021年4月1日～ 2022年3月31日	企業等委員

学校関係者評価結果の公表方法

<https://ccmc.ac.jp/school/information/>

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

<https://ccmc.ac.jp/school/information/>